

## ごまかすことなく丁寧に説明してくれる人がいいなあ

8月7日の朝日新聞（熊本では37面）に、『双方の歩み寄り実った／有田焼陶祖の新碑に尽力・韓国出身女性「住民動いたからこそ」』という記事が載った。

この女性は、有田町在住で、日韓文化交流の「玄海人クラブ」の代表をしておられる。地元住民たちの力で、両国の住民グループや学生を相互に訪問させている。その活動は驚くほど幅広く、どれも手抜きがない。私も、このクラブの名ばかりの会員である。

陶祖とは、四百年前、日本に初めて白磁の技術を伝えた陶工・李参平（リサンペイ）のことで、その直系の子孫が代々参平を名乗り現在に続いている。有田窯業界が、初代を「本邦窯業界の大恩人」と称え、陶祖として顕彰し記念碑を建立したのは大正6年(1917)のことである。

この碑文には、秀吉の朝鮮出兵を「征韓の役」と表記してあった。10年ほど前、韓国の住民団体が視察で訪れた際、「征韓」ではなく「侵略」と指摘し、訂正を求めた。征韓という表現は、韓の国を征伐しにいくという意味であるから、確かに問題がある。一方、訂正の要求を受けた有田町民の中には、「当時の町民の感謝の気持ちにケチをつけるなんて」という感情を持った人もいたらしい。

記事によると、在福岡総領事館は、この問題の解決を先述の代表に打診した。代表は、両国住民の間に立ち、韓国住民に対しては「侵略とすれば、友好の碑文ではなくなる。史実を客観的に捉える言葉にしたい」と説得した。韓国側の要求に応じる必要はないとする有田町民に対しては、「征韓という言葉に、韓国民がどれだけ嫌悪感を抱くか」を説いた。たいへんな苦労があった末、結局、双方「出兵」と表記することで納得し、現在の窯業関係者が新しい碑文を建立した。「政治がからむ国家ではなく、住民が動いたからできた」とは、代表の言葉。

半歩は、譲歩ではなく歩み寄りである。同クラブのモットーは「知らせる努力と知る勇氣」。

とうとう郵政解散、衆議院の総選挙になった。投票する我々の頭の中は混乱している。緊急世論調査の結果は、郵政民営化には国民の過半が賛成。しかし、自公は、過半数を取れないかもしれない。仮に過半を取り法案を再度提出しても、参院で否決される。自民の造反組は、造反者なのか？造反組が、自分たちこそ自民本流であり党を愛している、などと言う。割って出たとしても、それは仲間割れであって、政策の違いからではない。民主的政策も見えない。力量にも、疑問符がつく。小泉さんも岡田さんも、負ければ党首を辞めると宣言した。兩人とも、半べそかいたような目をしている。そこには、背水の陣の気迫は見えない。こんな中でも、小泉さんは靖国神社に参拝するだろうか。そうなれば、内外から反発は大きい。小泉さんは、自民党を破壊したいだけではないか。いずれにしても、投票率は低そうである。

今回は、住民の覚悟が試される選挙だ。先述の有田町のように、何事も住民が動いてよい成果が生れる、という覚悟。住民は、客観的な事実を見極める態度を身に付けなければならない、という覚悟。各党は、マニフェスト作りに着手したが、その受取りは拒否したい。それより郵政民営化について、メリット、デメリット、リスクについて、詳細な計算式を全部示し、懇切丁寧に説明して欲しい。投票の判断基準を設けるとすれば、その一点に尽きる。それをしてくれる政治家や党であれば、当選後も、まともな政策立案ができそうだから。